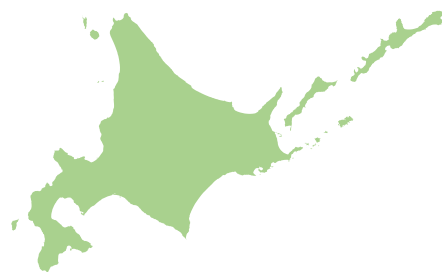


在宅医療従事者等に対する 暴力・ハラスメントに関する実態把握調査について



令和7年（2025年）1月30日（木）
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課

在宅医療従事者等に対する暴力・ハラスメントに関する実態把握調査について

1 調査目的

在宅医療の場面における暴力・ハラスメントの防止に向けた施策を検討するため、道内の在宅医療の場面における暴力・ハラスメントの実態を把握する。

2 調査対象

(1) 管理者向け実態把握調査

道内の在宅医療実施医療機関（※1）及び訪問看護事業所（※2）の管理者

(2) 職員向け実態把握調査

道内の在宅医療実施医療機関（※1）及び訪問看護事業所（※2）に勤務し、患家に訪問する機会のある職員

※1・・・在宅医療支援病院、在宅療養支援診療所、在宅療養後方支援病院、令和5年10月1日現在「在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料」または「在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料」を算定している医療機関

※2・・・保険医療機関のみなし指定事業所を含む

3 調査方法

(調査期間)

令和5年12月7日～令和6年1月12日

(回答方法)

調査対象機関に依頼文を郵送し、北海道電子自治体共同システムによりWEB上で、匿名での回答を依頼した。

4 回答状況

(1) 管理者向け実態把握調査

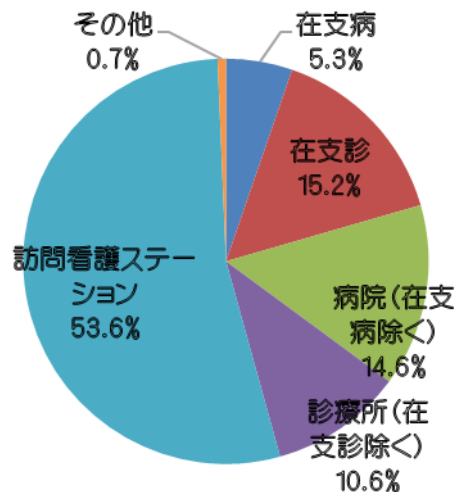
有効回答数 151件/2,783施設（回収率5.4%）

(2) 職員向け実態把握調査

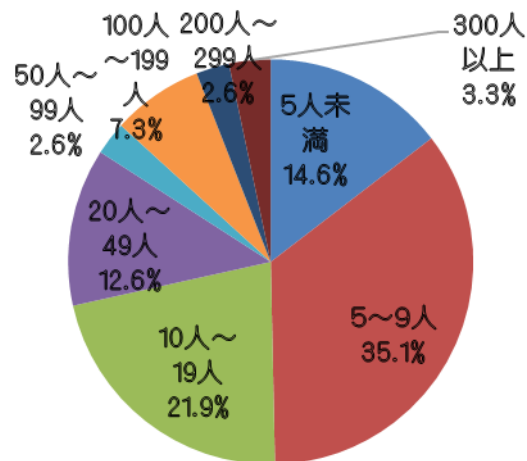
有効回答数 788件

回答者の所属施設の属性について（管理者向け調査）

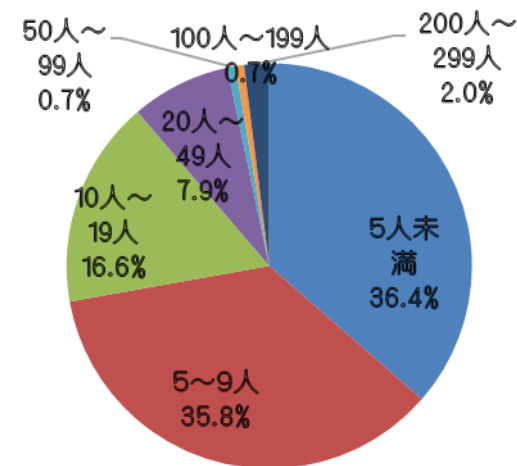
■種別（n=151）



■職員数全体（n=151）



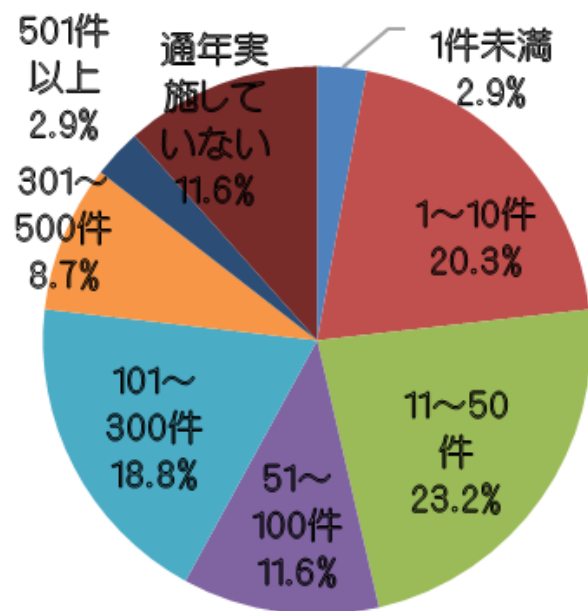
■患家を訪問する機会のある職員数（n=151）



■患家を訪問する機会のある職員の職種（n=151）

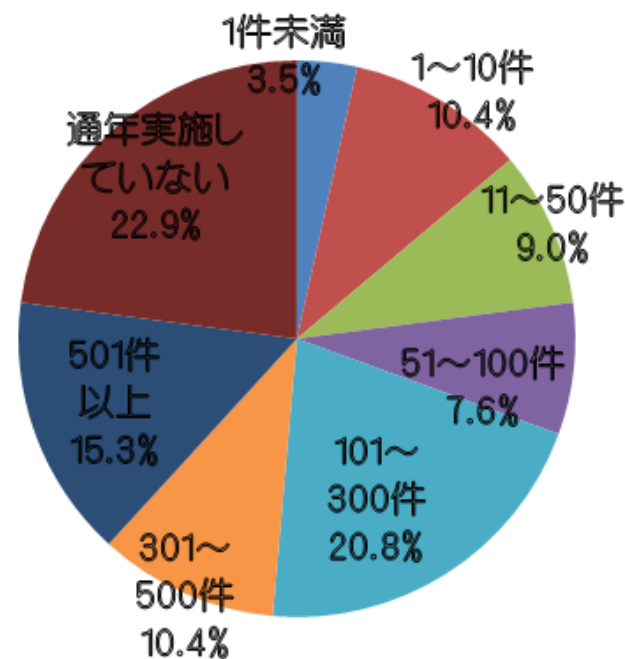
	医師	歯科医師	看護師	助産師・保健師	薬剤師	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	管理栄養士	放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士	歯科衛生士	医療ソーシャルワーカー・社会福祉士	事務職員	その他	回答数
在支病	62.5%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	8
在支診	100.0%	4.3%	91.3%	0.0%	0.0%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%	26.1%	47.8%	0.0%	23
病院（在支病除く）	86.4%	0.0%	100.0%	0.0%	4.5%	27.3%	4.5%	0.0%	0.0%	22.7%	22.7%	4.5%	22
診療所（在支診除く）	93.8%	6.3%	81.3%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	6.3%	6.3%	0.0%	6.3%	6.3%	16
訪問看護ステーション	1.2%	1.2%	100.0%	16.0%	1.2%	48.1%	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%	8.6%	6.2%	81
その他	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
計	41.7%	2.0%	95.4%	8.6%	1.3%	35.8%	0.7%	1.3%	1.3%	9.3%	19.2%	5.3%	151

■ 令和5年10月の訪問診療件数
(n=69)



※病院・診療所のみ回答

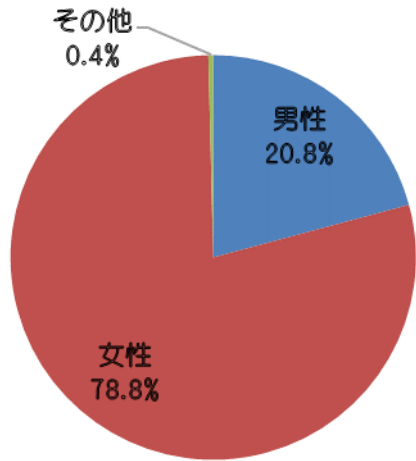
■ 令和5年10月の訪問看護件数
(n=144)



※看護師が患家を訪問する機会のある施設・機関のみ回答

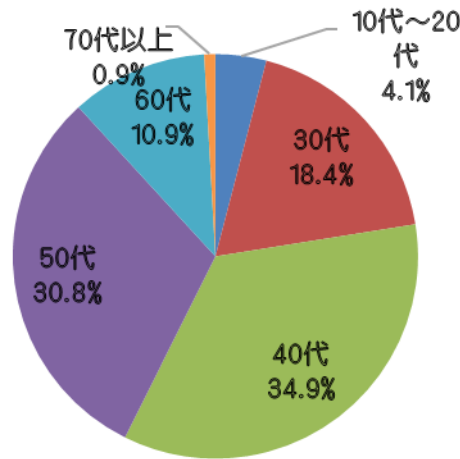
回答者の属性について（職員向け調査）

■性別（n=788）

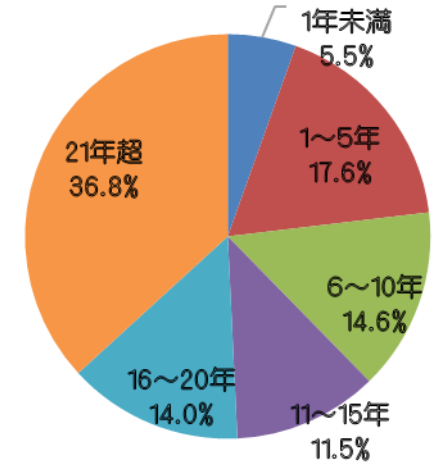


※「その他」の選択肢は、ジェンダーに配慮し設定。具体的な説明は記載していない（以下の設問も同様）
 ※本設問で「その他」と回答した人は3名

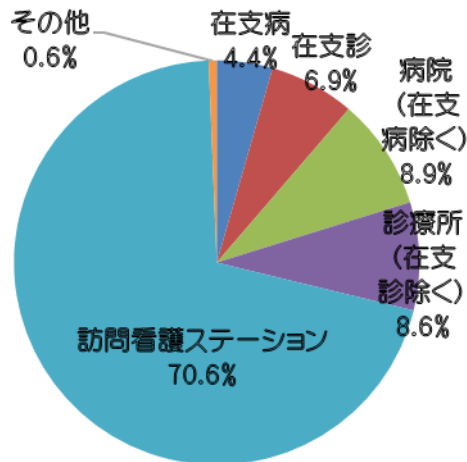
■年齢（n=788）



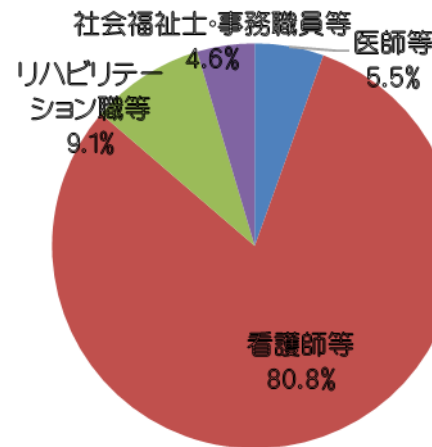
■経験年数（n=788）



■勤務先機関（n=788）



■職種（n=788）



【職種の分類】

医師等：医師、歯科医師

看護師等：看護師、保健師、助産師

リハビリテーション職等：

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、
 薬剤師、管理栄養士、放射線技師、
 臨床検査技師、臨床工学技士、歯科衛生士

社会福祉士・事務職員等：

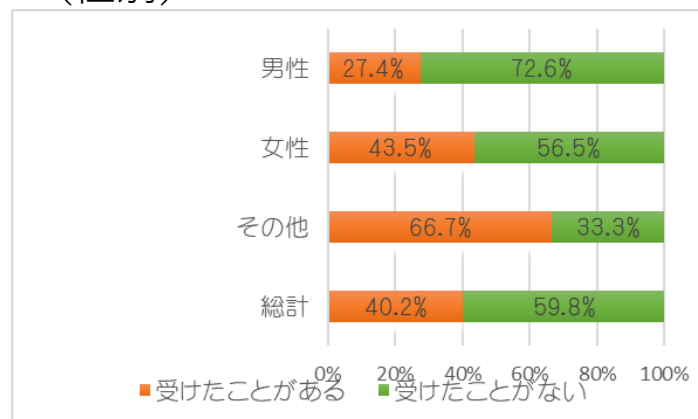
医療ソーシャルワーカー、社会福祉士、
 事務職員、その他

これまでのハラスメントの発生状況

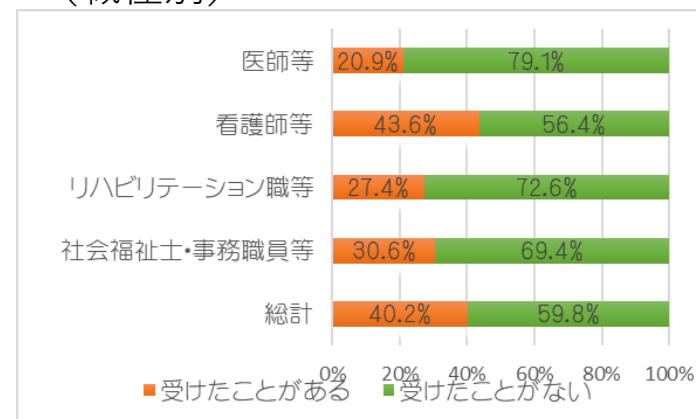
- **これまで**にハラスメントを受けたことがある人の割合は、患者・利用者本人からでは40.2%(317人)、患者・利用者の家族等からでは28.6%(225人)であった。
- いずれの場合もハラスメントを受けたことのある割合は女性が高く、職種別では、患者・利用者本人からの場合については看護師等の割合、患者・利用者の家族等からの場合については社会福祉士・事務職員等の割合が最も高かった。

■【職員向け調査】「これまで」に患者・利用者本人からハラスメントを受けたことの有無 (n=788)

(性別)

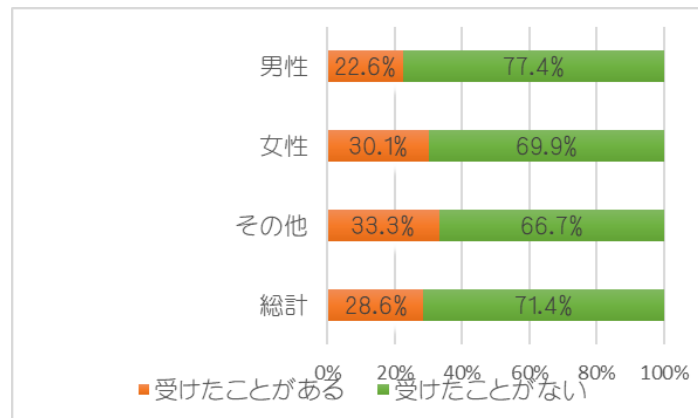


(職種別)

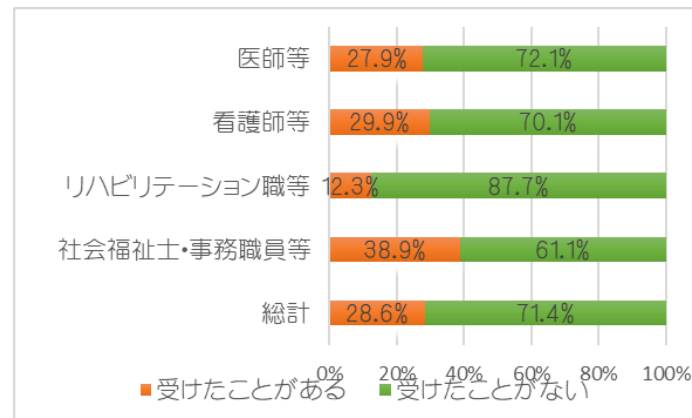


■【職員向け調査】「これまで」に患者・利用者の家族等からハラスメントを受けたことの有無 (n=788)

(性別)



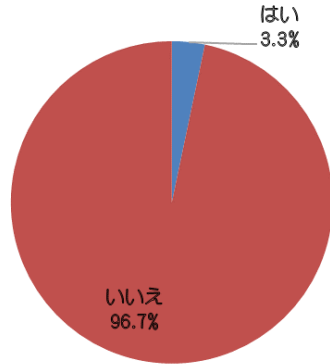
(職種別)



これまでのハラスメントの発生状況

- **これまで**にハラスメントを受け、生命の危機を感じた人の割合は、3.3%(26人)であった。
- ハラスメントを受け、仕事をやめたいと思った人の割合は、ハラスメントを受けた人のうち29.0%(99人)であり、このうち、6.1%(6人)が実際に離職をしていた。

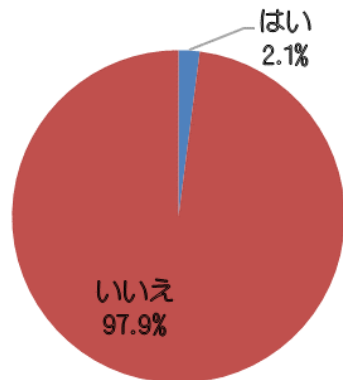
■【職員向け調査】「これまで」にハラスメントによる生命の危機を感じたことの有無 (n=788)



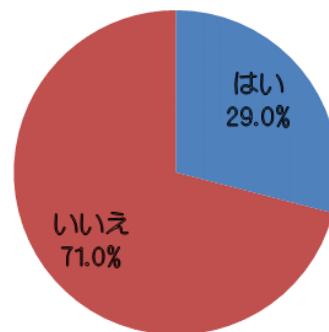
(具体的内容)

- ・ 家族に首を絞められた
- ・ ストーカーされた
- ・ 目の前に刃物が置かれた、刃物を向けられた
- ・ 暴言が高じて突き飛ばされ、倒れたが、逃げたなど

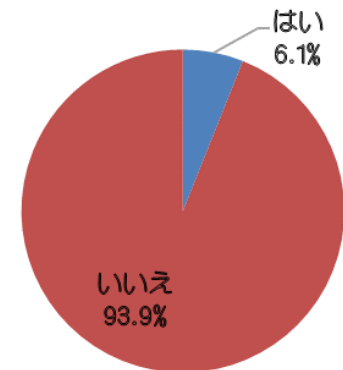
■【職員向け調査】ハラスメントを受けたことにより仕事を休んだことの有無 (n=341)



■【職員向け調査】ハラスメントを受けて仕事をやめたいと思ったことの有無 (n=341)



■【職員向け調査】ハラスメントを受けて仕事を実際に辞めたことの有無 (n=99)



※ハラスメントを受けたことがある人が回答対象

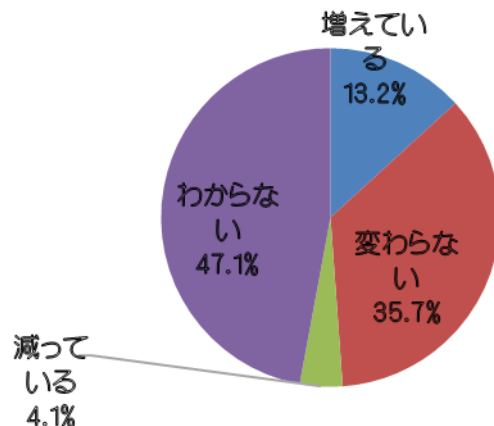
※ハラスメントを受けたことがある人が回答対象

※ハラスメントを受け、辞めたいと思ったことがある人が回答対象

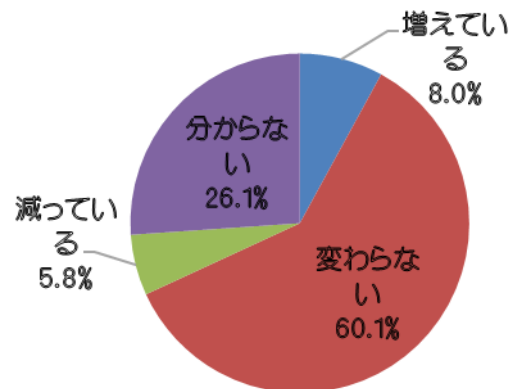
これまでのハラスメントの発生状況

- 所属する施設・事業所による在宅医療の場において、**職員**が把握している患者・利用者・家族等からのハラスメントの発生状況については、「増えている」が13.2%、「変わらない」が35.7%、「減っている」が4.1%であった。
- 一方、**管理者**が把握しているハラスメントの発生件数の推移については、「増えている」が8.0%、「減っている」が5.8%、「変わらない」が60.1%、であった。

■【職員向け調査】あなたの所属する施設・事業所による在宅医療の場において、患者・利用者・家族等からのハラスメントの発生状況の推移（令和2年度～令和4年度）はどのようになっていると感じるか（n=788）



■【管理者向け調査】患者・利用者・家族等からのハラスメントの発生件数の推移（令和2年度～令和4年度）（n=132）

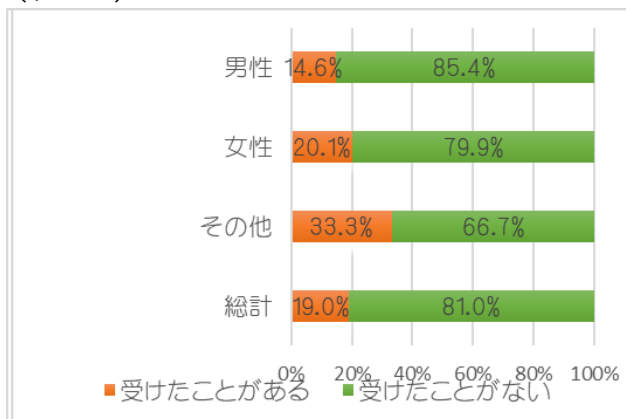


令和4年度のハラスメントの発生状況（性別・職種別・経験年数別）

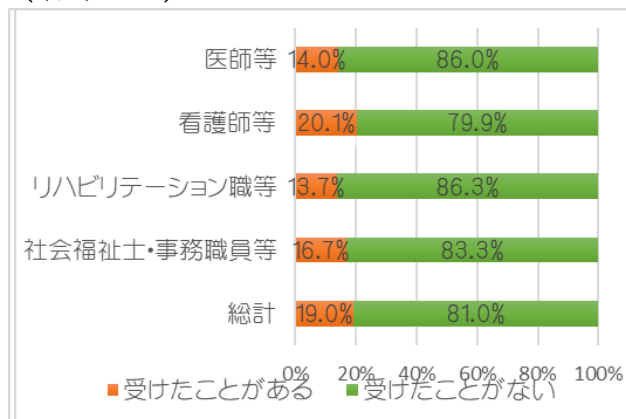
- **令和4年度**にハラスメントを受けたことがある人の割合は、患者・利用者本人からでは19.0%(150人)、患者・利用者の家族等からでは12.6%(99人)であった。
- 性別では、いずれの場合もハラスメントを受けたことのある割合は女性高く、職種別では、患者・利用者本人からの場合については看護師等の割合が最も高く、患者・利用者の家族からの場合については社会福祉士・事務職員等の割合が最も高かった。また、経験年数別では、本人からでは、大きな差はみられなかった。

■【職員向け調査】「令和4年度」に患者・利用者本人からハラスメントを受けたことの有無（n=788）

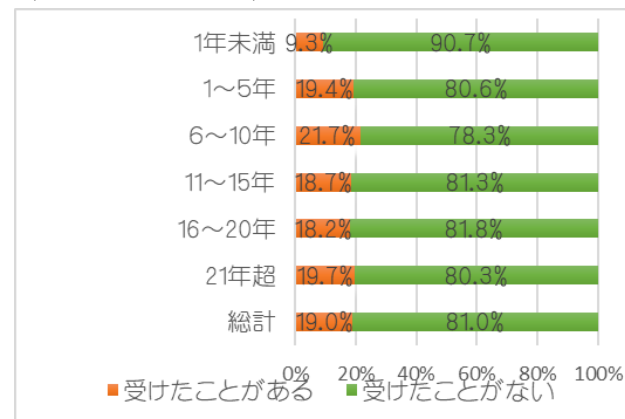
(性別)



(職種別)

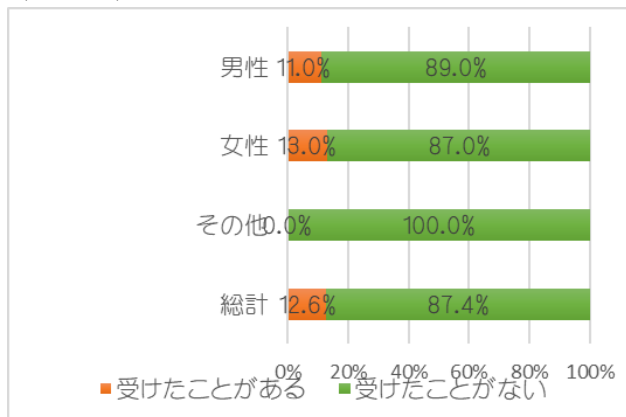


(経験年数別)

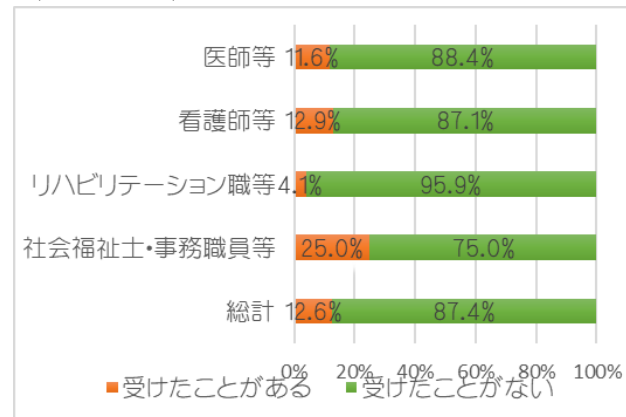


■【職員向け調査】「令和4年度」に患者・利用者の家族等からハラスメントを受けたことの有無（n=788）

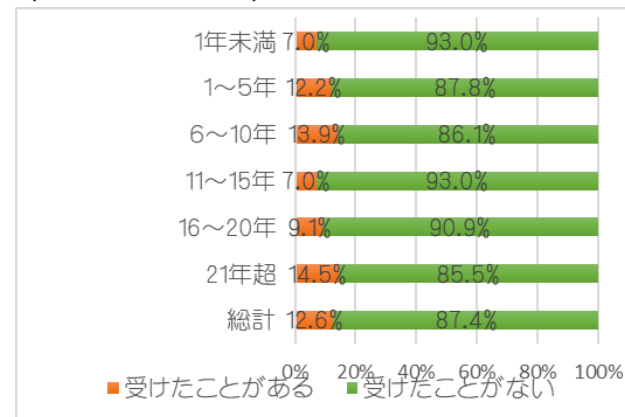
(性別)



(職種別)



(経験年数別)

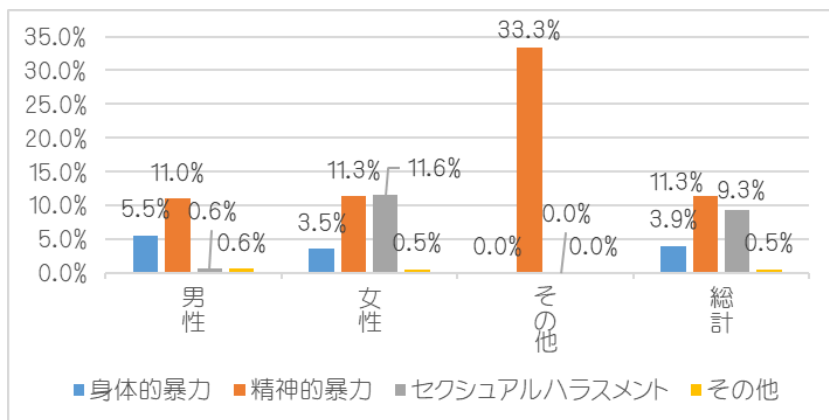


令和4年度のハラスメントの発生状況（ハラスメントの類型別）

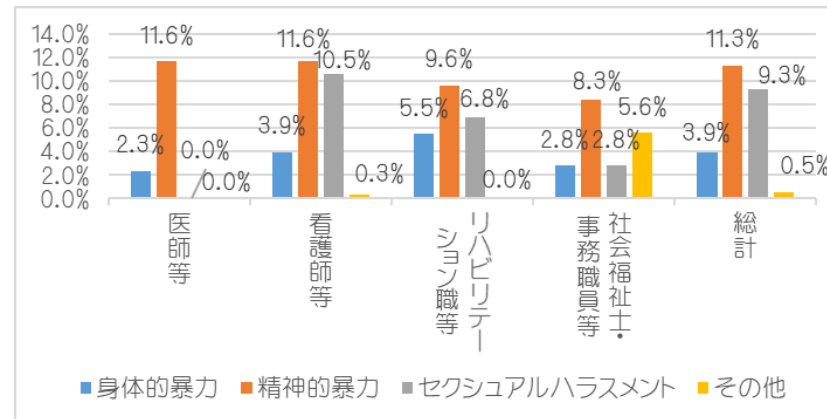
- **令和4年度**にハラスメントを受けたことがある人の類型別の割合については、患者・利用者本人からでは、身体的暴力が3.9%、精神的暴力が11.3%、セクシュアルハラスメントが9.3%、その他が0.5%であった。
- また、患者・利用者の家族等からでは、身体的暴力が1.5%、精神的暴力が8.6%、セクシュアルハラスメントが3.7%、その他が1.0%であった。

■【職員向け調査】「令和4年度」に患者・利用者本人から受けたハラスメントの類型（n=788）

（性別）

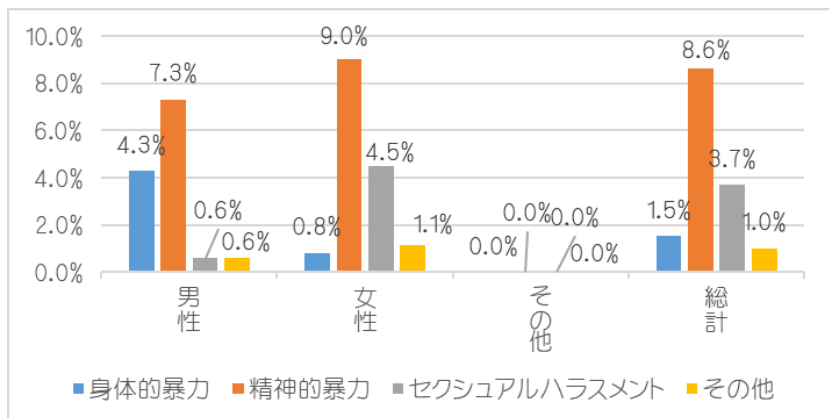


（職種別）

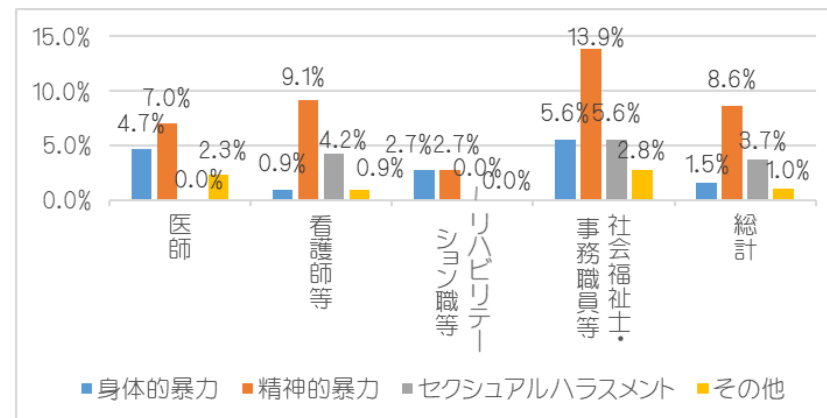


■【職員向け調査】「令和4年度」に患者・利用者の家族等から受けたハラスメントの類型（n=788）

（性別）



（職種別）



令和4年度のハラスメントの発生状況（具体的内容）

■【職員向け調査】「令和4年度」に患者・利用者本人から受けたハラスメントの具体的内容

（身体的暴力）

- ・物を投げつけられる、叩かれる、蹴られる、つねられる、殴られる
- ・包丁の突きつけ、振り回し
- ・携帯電話を取り上げられた

（精神的暴力）

- ・暴言、罵声、威圧的な態度
- ・サービスに含まれない内容やサービス時間外の作業の要求
- ・長時間や診療時間外の必要以上の連絡
- ・土下座の強要
- ・WEBサイトでの名指しした事実無根の書き込み

（セクシュアルハラスメント）

- ・性的な発言
- ・身体への接触、抱きつき
- ・露出行為、性的な物品の見せつけ
- ・プライベート事項への執拗な質問
- ・必要のない下半身への介助の強要、デート・結婚・性的行為への誘引

など

■【職員向け調査】令和4年度に患者・利用者の家族等から受けたハラスメントの具体的内容

（身体的暴力）

- ・叩かれる、殴られる
- ・はさみで脅される
- ・タバコの煙を吹きかけられる

（精神的暴力）

- ・暴言、罵声、威圧的な態度、脅迫、無視、土下座の強要
- ・サービスに含まれない内容やサービス時間外の作業の要求
- ・長時間や診療時間外の必要以上の連絡
- ・長時間の拘束、1時間以上立たされたまま苦情を伝えられる

（セクシュアルハラスメント）

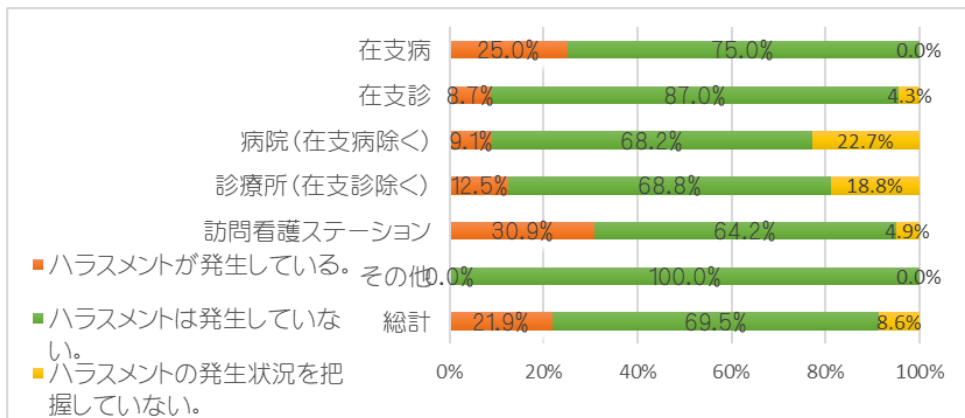
- ・性的な発言
- ・身体への接触、抱きつき
- ・患者への必要の無い下半身への介助の強要

など

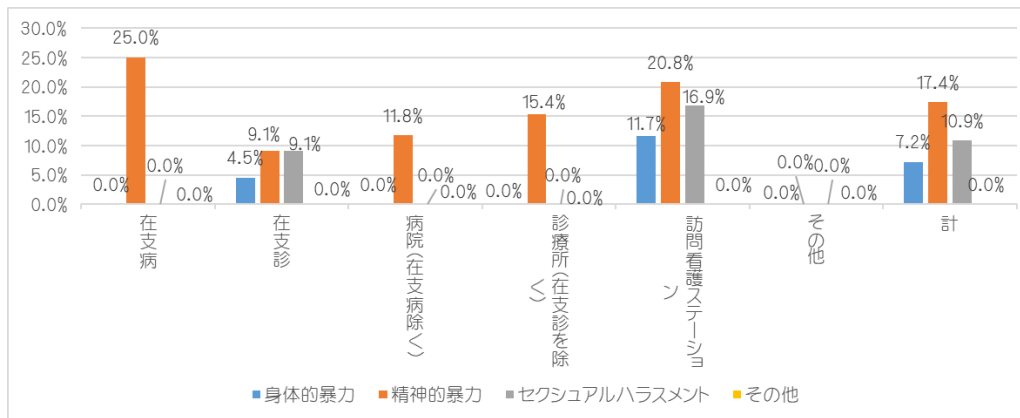
令和4年度のハラスメントの発生状況（管理者の把握状況）

○ **令和4年度**における各施設の患者・利用者・家族等からのハラスメントの把握状況については、全体として、「ハラスメントが発生している」が21.9%、「ハラスメントは発生していない」が69.5%、「ハラスメントの発生状況を把握していない」が8.6%であった。

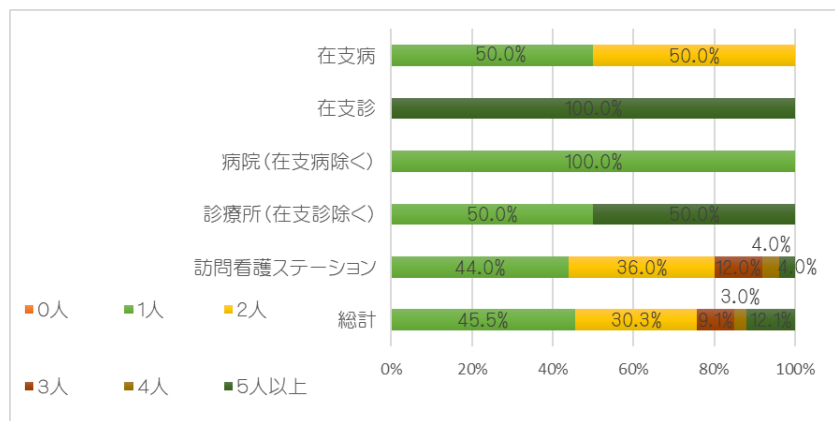
■【管理者向け調査】「令和4年度」の患者・利用者・家族等からのハラスメントの把握状況（n=151）



■【管理者向け調査】「令和4年度」の患者・利用者・家族等からのハラスメントの類型別の把握状況（n=151）



■【管理者向け調査】「令和4年度」の患者・利用者・家族等からのハラスメントを行った患者・利用者・家族等の人数（n=33）



■【管理者向け調査】「令和4年度」の患者・利用者・家族等からのハラスメントのハラスメントを受けた職員の数（n=33）

